

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ



～多様化するニーズへの
実践と進化～

開催日：令和6年12月8日(日)

会場：ソニックシティ

テーマ：Challenge!

サブテーマ：～多様化するニーズへの実践と進化～

第52回埼玉県医学検査学会
実行委員長 塚原 晃

第52回埼玉県医学検査学会の実行委員長を務めさせていただきます、戸田中央総合病院の塚原晃と申します。木暮憲幸学会長を中心に石井圭一事務局長、小原明学術部長、脇谷浩之運営部長、石井直美会計部長をはじめとする18名の実行委員と、学会担当の三木隆治理事・佐瀬勝也理事の20名で学会テーマでもある「Challenge!」しながら運営してまいります。

第52回学会は12月8日(日)ソニックシティにて開催を予定しており、会員皆様からのニーズにも応えるべく、活発な交流の場の提供とチャレンジ企画やメッセージの提供・発信ができればと考えております。第51回学会からしっかりと引き継ぎ(connect!)、第52回学会にて発展させ(Challenge!)、53回へと繋がっていく学会にいたします。今後の学会情報は「埼臨技だより」「学会ホームページ」等でご案内いたしますので楽しみにお待ちください。

会員、賛助会員の皆様からも交流・活動に関する情報をお寄せいただくとともに、忌憚のないご意見やご提案をいただければ幸いです。ご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

*学会ロゴが決定しました! 作成者：横山静織 委員(株式会社TLC)

研究班研修会報告

テーマ 各認定試験の対策と合格者体験談

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2023年10月20日 19時00分～20時40分

会場：ソニックシティビル 904会議室 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：認定臨床染色体遺伝子検査師試験対策

講師 1：園山 政行（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

講演 2：認定臨床染色体遺伝子検査師（遺伝子分野）合格体験談

講師 2：折原 悠太（埼玉医科大学病院）

講演 3：遺伝子分析科学認定士試験対策

講師 3：飯野 望（埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科）

講演 4：遺伝子分析科学認定士試験合格体験談

講師 4：相良 真理子（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター）

参加人数：会員17名 賛助会員1名

出席した研究班班員：小内玲子 園山政行 石橋佳朋 折原悠太 飯野望 相良真理子 松岡優

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、昨年実施した「埼玉県における遺伝子染色体検査アンケート」結果から要望の多かった認定資格を取り上げ、「各認定試験の対策と合格者体験」をテーマに研修会を開催した。

最初の演者の園山氏は、現在、認定施設が増えている国際規格ISO15189などの臨床検査室の認定・認証制度における資格の有用性を示した。また技師の遺伝子・染色体に関する認定資格を紹介、日臨技および日本染色体遺伝子検査学会が主催する認定臨床染色体遺伝子検査師の染色体分野を中心に試験対策についての講演であった。その中で筆記試験については大項目6項目の問題の傾向を示し、実技試験については完全正解が求められることが示された。試験対策だけでなく実際の業務から、問題点について解決するための習慣をつけることや、資格取得後の心構えなどのアドバイスがあった。

折原氏からは、認定臨床染色体遺伝子検査師（遺伝子分野）合格体験談として、自身の業務や立場から資格受験を考えた理由を述べた。具体的に行った対策や試験の内容および筆記試験の問題例、受けた実技試験の内容など受験者視点からの講演であった。参考書としては、JAMT技術教本シリーズはもちろんのこと、基礎については臨床検査技師教育で使用されている教科書や国家試験の遺伝子分野の過去問学習が役立ったなど、受験を考えている参加者にとって非常に参考になったのではないかと。

飯野氏からは、日本臨床検査同学院の遺伝子分析科学認定士の内容において、試験対策として問題集、テキスト、参考書の紹介があった。筆記試験については、出題されそうな問題例を示した。また、問題集に記載されていない実技試験については、受験者からの聞き取り調査をおこない、DNA抽出、アガロースゲル電気泳動、FISH法等の問題の出題例について具体的な説明があった。業務として行っていない内容については、行っている施設に見学をお願いするのも良いのではというアドバイスがあった。

相良氏からは、一級試験の合格体験談として、指定研修会、問題集、テキストの紹介。数問であるが過去問が記載されている、機関誌「通信」が参考になること、また一級試験から課せられる英語試験の内容、および実技試験の内容（次世代シーケンス解析、FISH法解析）など説明があった。英語の試験対策については、辞書持ち込み可であるが、試験中に調べている時

間は取れないことから、普段より論文を読みAbstractやConclusionから和訳した要約を書く練習をしておく和良好的なアドバイスがあった。

今回、染色体遺伝子関連の認定資格についての研修会であったが、特に認定臨床染色体遺伝子検査師試験については、過去問題といった参考書が無いため、どのような対策をすれば良いのか、参加者から具体的な質問があった。園山氏からは、必ず自身が業務で行っている分野からも出題されるので、まずはその分野について疑問がある場合に、このような研修会を通じて、相談できる場をつくるのが重要だとのアドバイスがあった。

埼玉県遺伝子染色体検査研究班として初めての対面による研修会であったが、これまでお互いに顔を見る機会が少なかったため、知り合うきっかけとなった研修会は良かったのではないだろうか。研修会自体としては、やや少ない参加者となった。今後、テーマによりzoom開催、現地開催（実習含め）等検討し、より良い研修会の企画を班員全員で考えていきたい。

(文責：石橋佳朋)

テーマ 尿沈渣を極める④ ～ 円柱・その他編 ～

主催 一般検査研究班

実施日時：2023年11月10日 19時00分～20時00分

会 場：浦和コミュニティセンター 第13集会室 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：講演1 渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

講演2 小針 奈穂美（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員34名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹 小針奈穂美
織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回の一般検査研修会は、「尿沈渣を極める」シリーズ④として渡邊氏と小針氏を講師に円柱編とその他編を4年ぶりとなる現地に開催した。

講演1では渡邊氏より、円柱形成のメカニズムから円柱の臨床的意義、各種円柱の鑑別ポイントなどの講演がなされた。円柱は尿細管腔にて様々な条件が重なり形成される。硝子円柱は尿細管腔の一時的な閉塞や尿流圧の低下を意味するため、慢性腎臓病や循環器疾患において検出が重要である。講演では、硝子円柱と類似する沈渣成分である粘液糸との鑑別ポイントと、鏡検時のポイントが写真と共に解説された。また、病的円柱は種類により臨床的意義が異なるため、病態や臨床症状、尿沈渣中のその他の背景などを把握することも重要であるとのことであった。腎実質の病態を反映する重要な沈渣成分の一つとして、円柱報告の意義を再確認できる内容であった。

講演2では小針氏より、微生物類・寄生虫類では細菌・真菌・トリコモナス原虫、および、塩類・結晶類の鑑別ポイント、臨床的意義の解説がなされた。

細菌尿に関連して、尿の細菌学的簡易スクリーニング検査とされている尿定性検査の亜硝酸塩の項目や尿路基礎疾患の有無により、単純性尿路感染症と複雑性尿路感染症に分類されること、さらに原因菌についても報告があった。

結晶類鑑別ポイントとしては、色調、形態的特徴、尿pH、塩酸や水酸化カリウムでの溶解性などが挙げられた。各結晶の形態ごとに写真があり、形態的特徴がとても分かりやすかった。

最後に、その他の成分としてマルベリー小体や、糞便・花粉・ダニなどの混入物の解説がなされた。特にマルベリー小体はファブリー病患者に見られる特徴的な尿沈渣所見として注目されているものである。今回の講演では写真だけでなく動画も用いてマルベリー小体の渦巻き状を確認でき、大変貴重な機会となった。

尿沈渣検査は針のいらぬ腎生検とも称されるとおり、臨床的に高い有用性があり尿沈渣成分を確実に捉えることは重要である。今回、円柱とその他各種成分の鑑別ポイントや臨床的意義を再確認でき、日常業務に大いに役立つ講演であった。

(文責：松本実華)

テーマ 嫌気性菌検査の考え方 ～レベル1の同定を前提に～

主催 微生物検査研究班

実施日時：2023年11月17日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科一各20点

講師：豊田 耕一（極東製薬工業株式会社）

参加人数：会員43名 賛助会員4名 非会員1名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 岸井こずゑ 今井美美 佐々木真一 伊波嵩之
大塚聖也 渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今回は「嫌気性菌検査の考え方 ～レベル1の同定を前提に～」をテーマに研修会を開催した。嫌気性菌感染症に関して、豊田氏から嫌気性菌検査のポイントについて解説があった。

嫌気性菌感染症には*Clostridium* spp.が放出する毒素が関与する破傷風、ガス壊疽、ボツリヌス症、*Clostridioides difficile*感染症のほか、常在菌叢を構成する複数の偏性嫌気性菌と通性嫌気性菌が関与する化膿性感染症や細菌性膿症、抵抗力が低下しているヒトの菌血症・敗血症などがあることが解説された。

欧米では、一般細菌と異なる嫌気性菌専門検査室が設けられ検査が実施されているため、他国よりも嫌気性菌検出率は良好であると報告があった。嫌気性菌検査の成績はその国の臨床微生物検査のレベルを示すことが解説され、嫌気性菌検査をおろそかにしてはいけないと実感した。嫌気性菌検査は費用と労力を要するため、分離菌の病原的意義の判断が可能な検体であるカテゴリーAが検査対象となる。検体採取に際しての注意点は、常在菌叢の混入を避けるため注射器、カテーテルによる採取が原則であり、スワブによる採取は極力避け、できる限り空気に曝さないことが重要である。嫌気性菌用培地への酸素の侵入は嫌気性菌の発育を阻害するため、培地は還元状態にしておき、開封後は直ちに使用することなどの注意点が解説された。嫌気性菌感染症は複数菌感染であることが多く、嫌気培養では偏性嫌気性菌だけでなく通性嫌気性菌も分離されるため、選択分離培地を使用することで嫌気性菌の検出率向上につながることを解説された。

偏性嫌気性菌の同定レベルは、レベル1a、レベル1b、レベル2、レベル3に分類される。レベル1aは同定キットを使用せずグラム染色所見と培地集落、性状確認試験より菌名推定を行う。レベル1bは、レベル1aに加え確認培地を利用し推定同定を行う。レベル2は同定キットを使用し菌名同定を行う。レベル3は遺伝子解析にて菌名を決定する。レベル1aでは簡易性状確認試験であるカタラーゼ試験、逆CAMP試験、集落の蛍光試験を、レベル1bではHK半流動確認培地を用いた推定同定について解説がされた。

検査対象となる検体は、検体採取時の操作や嫌気性菌用分離培地の選択などに留意しなければ起炎菌である嫌気性菌を分離できないことがあるため、改めて菌種同定前段階の工程が重要であることを実感した。嫌気性菌検査の基礎や日常業務に実践できる知識を学ぶことができた研修会であった。

(文責：酒井利育)

テーマ **甲状腺病変 ～ 超音波検査・細胞診・組織診からのアプローチ ～**

主催 病理・細胞・生理検査研究班合同

実施日時：2023年11月24日 18時00分～20時15分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：超音波検査の視点から

講師 1：田名見 里恵（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

講演 2：甲状腺細胞診 ～基本の見方～

講師 2：藤沢 美穂（社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院）

講演 3：甲状腺病理診断、これだけ知っておけば大丈夫

講師 3：亀山 香織（昭和大学横浜市北部病院 臨床病理診断科）

講演 4：症例検討

講師 4：渋谷 樹（さいたま市立病院）

参加人数：会員263名 非会員1名（亀山医師）

出席した研究班班員：

（生理検査）南雲涼太 工藤淳子 横尾愛 小宮山英幸 新井雅人

（細胞検査）鶴岡慎悟 急式政志 船津靖亮 野本伊織 猪山和美 稲山拓司 加藤智美
小川弘美 並木幸子（病理検査）関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴 遠山人成
松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は生理、細胞、病理の3班合同研修会として、甲状腺病変をテーマに開催した。

田名見氏は、甲状腺結節の超音波診断基準を中心に超音波画像を豊富に提示し、わかりやすく解説した。超音波診断基準の主所見として、結節の形状、境界の明瞭性・性状、内部エコーのエコーレベル・均質性を見極めることにより、良性か悪性かの推定を行うとのことであった。充実性部分の大きさについて、一般的には大きいものほど悪性を疑うが、小さい病変でも悪性の場合があり、大きさに惑わされず確実に所見を捉えることが大切と説明があり、これは細胞診において細胞所見を着実に判定していくことに類似していると感じた。

藤沢氏は、細胞診標本作製のコツから、良性・悪性病変、実際の標本の見方や報告様式に至るまでを講演した。甲状腺の標本では、しばしば濾胞上皮細胞が多量の血液に埋没し観察が困難である場合があり、対策として塗抹時に液体成分を紙に吸収させることが大切とのことであった。また、標本の見方としては、まず背景（血性、コロイド、リンパ球、壊死、泡沫細胞等）を観察し、次に細胞集塊（シート状、乳頭状、小濾胞、孤立等）を捉える。続いて出現している濾胞上皮細胞の核構造（核内細胞質封入体、核溝、すりガラス状、粗顆粒状等）を見極め、細胞質の性状（好酸性、紡錘形等）を確認する。これらを総合的に判断し、良悪性の鑑別や組織型の推定を行うとのことであった。

亀山医師は、甲状腺病変について病理組織学的に、また遺伝子変異についても併せて解説した。甲状腺腫脹の約80%は腺腫様甲状腺腫で、この病変は過形成性であり、大小の濾胞、濾胞上皮の密な増殖、線維化、石灰化、嚢胞形成等様々な組織像を呈することを画像を交えて解説した。また、甲状腺癌の約90%は乳頭癌で、細胞診で観察される特徴的な細胞像が組織像でも裏付けされた。乳頭癌ではBRAF遺伝子の変異が30～90%の割合でみられることもわかった。

渋谷氏は、症例検討として2症例を提示し、いずれも腺腫様甲状腺腫を背景に持つ濾胞腺腫と乳頭癌を解説した。良性の腺腫様甲状腺腫と悪性の乳頭癌が混在し、乳頭癌成分が少ないとすれば、細胞診では悪性寄りの判定とすることは難しいが、超音波画像の情報を読み取ることができれば、より強めの判定が可能となる確率が上がるとのことであった。

超音波画像、細胞診、病理組織の情報を総合的に考えることにより、検査の正確度を高めることができると3班合同研修会では毎回思うところである。日常業務においても相互情報を積極的に取り入れ、患者さんにとって有益な検査結果を提供することを期待したい。

(文責：三鍋慎也)

テーマ 第25回秩父臨床化学セミナー ～冬季1泊研修会～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2023年12月9日14時00分～2023年12月10日12時00分

会 場：宮本の湯（秩父郡小鹿野町） 教科・点数：専門教科－30点

講 演 1：腎臓の働きと透析について

講 師 1：松重 萌衣（株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所）

講 演 2：尿の定量検査 ～尿の理解をさらに1歩前へ～

講 師 2：杉村 楓（越谷市立病院）

講 演 3：事例から紐解く生化学と血算データの合体技特集

講 師 3：北川 裕太朗（埼玉医科大学病院）

講 演 4：精度管理とは ～精度管理の基礎～

講 師 4：石川 純也（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）

講 演 5：ナイトセミナー ～あれってどうしてる？みんなの疑問をみんなで解決～

講 師 5：巖崎 達矢（東松山医師会病院）

永井 謙一（埼玉県済生会川口総合病院）

講 演 6：肝臓の繊維化と関連項目 ～肝繊維化マーカー・オートタキシンについて～

講 師 6：遠藤 美香（富士フィルム和光純薬株式会社 臨床検査薬事業部）

講 演 7：梅毒の流行状況と抗体検査について

講 師 7：中岡 啓一（極東製薬工業株式会社 営業学術部）

参加人数：会員31名 賛助会員25名 非会員1名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 巖崎達矢 石川純也 杉村楓
松重萌衣 福島渉

研修内容の概要・感想など

3年振りに秩父臨床化学セミナーを現地開催した。

「腎臓の働きと透析について」では、腎臓には多くの働きがあるが、それらの詳しい解説を聞くことができ、働きが悪くなったときにどのような不調が出てくるのかを知ることができた。つづいて透析については、透析の原理から方法、透析液にはどのような成分が含まれているかを学ぶことができた。透析前と後のデータの変化を知ることができたのは日常業務でとても参考になると感じた。

「尿の定量検査～尿の理解をさらに1歩前へ～」では尿試料での検査時における注意事項やAKIのバイオマーカーについて説明がなされた。随時尿を試料とした場合、日内変動が大きくなるが、クレアチニンで補正すればある程度変動が抑えられることや、定性検査と定量検査の結果が不一致だった場合の解釈などを知ることができた。

「事例から紐解く生化学と血算データの合体技特集」では、測定した検査データが病態によるのか、それ以外によるのかを日常検査では判断し、臨床へ報告する必要がある。判断手法として項目間チェックや前回値チェックなどを利用するが、血算の測定原理や赤血球指数を理解し総合的に判断することは担当者間の情報共有、さらには患者さんへの有益な検査に繋がるとのことであった。

「精度管理とは～精度管理の基礎～」では、精度管理の基礎から実際の事例までを学んだ。

精度管理とは、内部精度管理と外部精度管理の2つがあり、内部精度管理は精密さを維持するために重要であり、外部精度管理は正確さを確認するために重要である。この2つを上手く実施して正確さを維持できるようにすることが大切である。実際の事例としてシフトやトレンド現象、突然のバラつき、再現性不良の精度管理図や原因を確認した。

「肝臓の線維化と関連項目～肝線維化マーカー オートタキシンについて～」では、肝線維化マーカーは肝硬変や肝癌のリスクファクターとして、肝生検に代わる非侵襲的検査として現在様々なマーカーが用いられていることを知ることができた。その中でも、オートタキシンは軽度の線維化に優れているため、予知因子としての使用が期待されている。「ATX オートワーク」は生化学汎用機での測定が可能のため、今後は健診や人間ドックでの活用も期待したい。

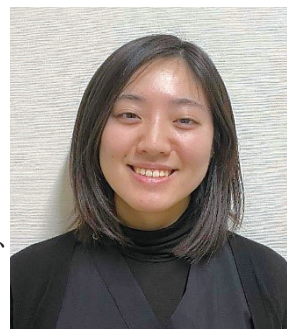
「梅毒の流行状況と検査について」では、梅毒の進行と症状、検査の種類とその解釈を知ることができた。報告数はここ数年で激増しており、都道府県別でも埼玉県は上位である。検査法は脂質抗体検査とTP抗体検査で変わっていないが、いままで「既往」とされていたRPR陰性、TP抗体陽性に「梅毒感染初期」の解釈も加わった。これは感染者数の増加と試薬・装置の改良により、TP-IgMを捉えることで分かったことによる。検査結果の解釈が変わることは臨床検査技師にとって大きな変化だと感じた。

(文責：永井謙一)

以下、参加者の感想を掲載する。

埼玉医科大学病院
田中 歩実

今回、初めて秩父臨床化学セミナーに参加させていただき、大変有意義な時間を過ごせました。日常業務を行う上で血算などの他項目を確認する大切さや尿定量検査、梅毒検査や肝線維化マーカー検査の新しい知識を得ることができました。実際の症例を通して勉強した検査データの見方はすぐに生かそうと思います。また諸先輩方の各講義やナイトセミナーから、自分が漠然と目の前の日常業務をこなしていたことを反省し、広い視野をもって検査に向き合わなければと反省いたしました。さらに今回のセミナーを通して他施設の方々とできたつながりは大切にしていきたいと思います。2日間の研修会はとても充実したものとなりました。またぜひ参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。



地方独立行政法人 静岡市立静岡病院
袴田 知里

今回、第25回目となる秩父臨床化学セミナーに参加させていただきました。静岡県から伺わせていただいたため、沢山お手間を取らせてしまいましたが、皆さん親切にしてくださり楽しんで参加することができました。

尿の定量検査については文献や参考資料が少ないため、施設ごとの採取方法や前処理方法を聞いたことは大変参考になりました。今後自施設での運用に取り入れていきたいです。他にも精度管理や最近流行となっている梅毒の検査など、幅広い内容を深く知ることができたとても有意義な勉強会になりました。

二日間のセミナーということで、いつもの研修会では他施設の方にはなかなか聞けない本当に些細な疑問を聞けたり、皆さんがどのように仕事と向き合い、日々業務を行なっているか垣間見ることができました。私も皆さんを見習って意見交換などを積極的に行い、臨床検査技師という仕事を楽しく行けたらいいなと思うことができました。本当にありがとうございました。



医療法人社団 栄悠会 綾瀬循環器病院
塙 友希

今回3年振りに現地開催された秩父臨床化学セミナーに参加させていただきました。普段の業務で活かせる乳び検体の処理や精度管理の考え方など学ぶことができました。また、ナイトセミナーでは他院の検査技師の方々との交流もあり意見交換など一泊ならではの横の繋がりを持ってました。様々な人と話し視野の広がる2日間でした。ありがとうございました。

テーマ **骨髄形態セミナー【実習】**

主催 血液検査研究班

実施日時：2023年12月17日 10時00分～14時00分

会 場：女子栄養大学 坂戸キャンパス 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：血液検査研究班員

協 賛：シスメックス株式会社

参加人数：会員23名 賛助会員3名 学生3名

出席した研究班班員：中山智史 網野育雄 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 島田崇史 吉澤悟
石田沙妃

研修内容の概要・感想など

今回は血液検査研究班HPに掲載する方法で、島田氏の「骨髄画像問題と解説」および澁川氏の「骨髄検査の基礎」を事前学習として録音形式で講演を行なった。現地での実習では、5班に分かれて5症例を検査所見と骨髄標本の鏡検から疾患名を推測し、症例ごとの特徴的な血液細胞や疾患名、疾患鑑別に必要な追加検査などを発表形式で各班代表者に回答していただき、最後にそれらの症例の解説を堀口氏が行った。

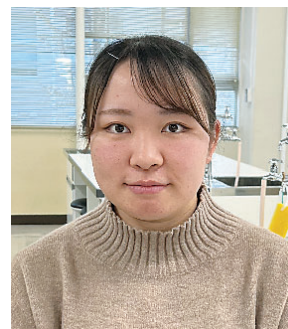
交流の少ない他施設の検査技師が話し合いを重ね、症例について検討し、疾患や追加検査を導き出す姿から骨髄検査を学ぶ検査技師の知識向上に貢献できる研修会であった。

(文責：吉澤悟)

以下に参加者の感想を掲載する。

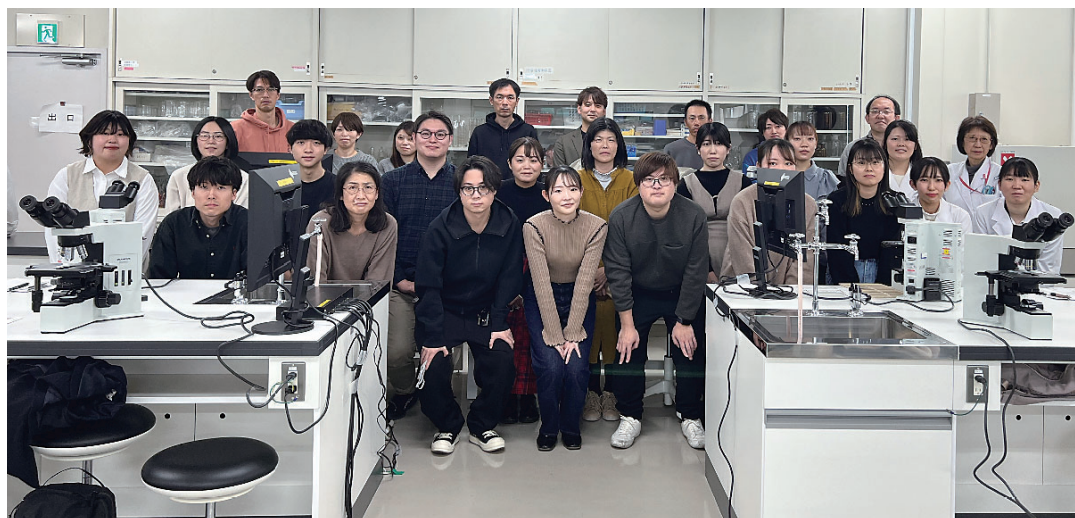
さいたま赤十字病院
根岸 茉央

就職して2年目となり、ルーチンとしてのマルク業務には慣れてきたものの、疾患への理解が追いついておらず、知識をより深めたいと思い参加しました。研修内容は標本を用いた実践的な症例問題を中心に行われました。標本の見方に加え、マルクを行うに至った経緯や採血のデータ、患者情報なども合わせて疾患を推測していく流れを体験できました。普段漠然と眺めているだけになってしまっていたルーチンでの標本も、今後はひとつひとつ順を追って評価し、より解像度の高い解釈に繋げていきたいと感じました。知識を深めるだけでなく、出会った症例へのアプローチ方法も学べた研修会でした。今後の業務、知識の向上に活かしていきたいと思っております。ご指導いただきありがとうございました。



株式会社ビー・エム・エル総合研究所
山本 泰啓

私は、今年の7月から骨髄検査に携わることになり基礎から学ぶ必要があったため、今回の骨髄形態セミナーに参加させていただきました。事前に配信された問題や資料では、骨髄検査の基礎的な知識や細胞の形態的特徴、症例の判読に至るまで詳しく学ぶことができました。セミナー当日は、会場で班ごとに分かれて5つの症例を鏡検し、ディスカッションしながら判読をしていきました。また、講師の方々の各症例についての判読のポイントや解説のお話はとても分かりやすかったです。今回のセミナーで得た知識を今後の鏡検業務に活かしていきたいと思います。ご指導ありがとうございました。

テーマ **免疫血清検査における精度管理について**
～ 免疫血清検査の基礎、測定原理から精度管理 ～

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年12月14日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科ー20点

講 師：中島 正雄（シスメックス株式会社）

参加人数：会員12名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 岡倉勇太 飯山恵 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、免疫血清検査における精度管理を主に免疫血清検査の基礎や測定原理、ピットホールなども交えた内容であった。

免疫測定法は抗原抗体反応を利用した測定法であり、主に微量成分を測定する方法に用いられる。免疫血清検査の測定法は非標識法と標識法があり、標識法は均一法（ホモジニアス法）と不均一法（ヘテロジニアス法）に区別される。均一法はB/F分離を行わない測定法であり、反応ステップは少ないが、生体成分の影響を受けやすい。反対に不均一法はB/F分離を行う測定法であり、反応ステップは多いが、生体成分の影響は受けにくい。測定法に関して、不均一法のCLIA法、ECLIA法、CLEIA法の特徴、サンドイッチ法と競合法の違いについての説明があった。また、免疫検査法のピットホールについては、異好抗体やHAMA、マイクロフィブリンによる非特異反応の機序とその対処法の説明があった。

免疫血清検査の精度管理は基本的には生化学検査と同様の手法が適応される。今回の研修会

では日常検査で最も用いられている \bar{x} -Rs-R管理図について詳細な説明があった。 \bar{x} -Rs-R管理図は日内精度管理と日間精度管理と統合した管理図である。管理図のターゲット値と管理幅の求め方は20日間以上管理物質を反復測定し、その平均値とSDを算出する方法がある。しかし、生化学検査法と比較して血清免疫検査法では試薬や校正物質のロット間差から管理幅とSD値が変動しやすいため、対応策として過去複数ロットの平均SDとCVを計算し固定の管理幅を作成する方法がある。他には、精度管理評価方法としてウェストガードのマルチルール法について、データ異常のパターン（シフト・トレンド現象）とその対処法についての説明があった。

精度管理手法を理解することは免疫血清検査だけではなく、臨床検査全域に共通して重要な事項である。特に免疫血清検査の精度管理は測定される物質の特性、測定方法、試薬の組成、分析機器の特性を考慮する必要がある、管理幅の設定に難渋することもある。今回の研修会は精度管理方法の詳細な説明を聞き、自施設の精度管理方法を見直す良い機会となった。

(文責：渡邊剛)



埼玉県臨床検査技師会 OB会入会へのお誘い

埼玉県臨床検査技師会OB会は、定年退職された方や長く賛助会員として勤め上げた方で組織し、親交を深めています。また、埼臨技の支援をいただき学会参加や埼臨技会報など配布し、これまで同様に技師会との変わらない絆を大切にしています。

OB会の趣旨、活動に賛同し入会を希望する方は、下記記載のメールアドレスまたは電話で問い合わせさせていただきたくご案内申し上げます。

埼玉県臨床検査技師会事務所内

E-mail : sairingi-ob@sairingi.com Tel : 048-824-4077



令和5年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 第10回 理事会議事録

日時：令和6年1月11日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 松尾 佐瀬
網野 三木 塚原 神嶋
伊藤(恵) 伊藤(隆) 石井
神戸 小林 長岡 久保田
長谷川

(監事) 遠藤 細谷

欠席：なし

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年12月14日～令和6年1月10日)

12月14日(木) 令和5年度第9回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、
松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、
三木、塚原、神嶋、伊藤(隆)、
長岡、久保田、長谷川、神戸、
石井、小林、細谷

12月19日(火) 日臨技予算委員会：神山

- 12月21日(木)第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬
- 12月22日(金)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木
- 12月23日(土)日臨技関係機関との災害応援協定の締結を促進するためのWEB説明会：
松岡、濱本、長澤、松寄、神戸、伊藤(隆)、網野
- 12月25日(月)第23回わらび健康まつり実行委員会：塚原
- 12月27日(水)日臨技表彰委員会：神山
- 1月2日(火)事務所巡回：濱本
- 1月5日(金)日臨技臨時災害救済委員会：神山

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 12月18日(月)栃木県臨床検査技師会に一般検査TOCHIGIセミナーの共催について承諾回答した。
- 2) 12月18日(月)埼玉乳がんケア・サポートグループに乳がん市民フォーラムin所沢の後援について承諾回答した。
- 3) 12月23日(土)日臨技「関係機関との災害応援協定の締結を促進するためのWEB説明会」に埼臨技理事7名が参加した。
(別紙資料1)

2 総務部

- 1) 1月15日(月)だより第536号発行予定。
- 2) 1月21日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県021)を開催予定。運営責任者は松寄次長。

3 事業部

- 1) 12月25日(月)第23回わらび健康まつり実行委員会へ参加した。
(別紙資料2)

4 学術部

- 1) 12月30日(土)「2月・3月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

5 精度保証部

- 1) 12月31日(日)「2023年度審査日臨技品質保証施設認証制度実施要項」を埼臨技HPに掲載した。

6 会計部

- 1) 12月11日(月)令和5年度予算委員会を開催した。
(別紙資料3)
- 2) 令和5年度正会員費3名15,000円、入会金3名3,000円、合計18,000円の入金があった。

- 3) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金100,000円の入金があった。
- 4) 石井印刷に埼臨技だより535号Web版15P72,600円、会誌Vol.70-No.2印刷代515,625円、2023年度名簿印刷代198,220円、仕分費26,752円、封筒(角2)60,500円、合計873,697円を支払った。

7 精度管理委員会 特になし

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 12月21日(木)第15回実行委員会を開催した。
(別紙資料4)

12 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 12月22日(金)第3回実行委員会を開催した。
(別紙資料5)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和5年度分)
令和6年1月1日現在
会員数 3,604名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 293名)
賛助会員 71社[令和4年度 71社]
承認された。

- 2) 令和5年度臨時総会議案書について
(別紙資料6)

上記の件について、濱本隆明事務局長と神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 2) 埼臨技会員名簿について (別紙資料7)
次年度以降の会員名簿にある「◎技師長・○施設連絡責任者」の表記を廃止したい。

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 遺伝子染色体検査研究班班員応募について
(別紙資料8)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 令和6年度研究班事業計画について
(別紙資料9)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 令和6・7年度研究班班員(案)について
(別紙資料10)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、遺伝子染色体検査研究班、公衆衛生研究班を除く9研究班について承認された。

4) 第51回埼玉県医学検査学会各賞受賞者について
(別紙資料11)

上記の件について、久保田亮編集委員長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

1) 令和6年度研究班予算案について

(別紙資料12)

上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 生涯教育研修会会場整理費の増額について

上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、来年度から生涯教育研修会の会場整理費について300円から500円とすることが承認された。

7 精度管理委員会

特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

1) じほうへの取材申し込みについて

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、次回学会からじほう社への取材依頼は学会実行委員会が行うことが承認された。

9 第52回埼玉県医学検査学会

1) 上程事項

- 1) 学術部への学術権限取得を希望したい。
- 2) 学会HP立ち上げに際し、埼臨技サーバーを借用したい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

- 1 事務局 特になし
- 2 総務部 特になし
- 3 事業部 特になし
- 4 学術部 特になし
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

立春も過ぎ、二十四節気の1年が始まります。

2月のイベントと言えば・・・バレンタインデー。日本では女性から男性に愛を伝える日として知られています。統計的には世の中の約8割の方がバレンタインデーに何らかの思い出を持っているようです。しかし意外に「成功した」というよりも「失敗した」、「勇気が出せなかった」といったほろ苦エピソードの方が多ようです。

日本ではチョコレートをプレゼントすることが風習となっていますが、プレゼントするお菓子によって、相手への気持ちがわかるといわれています。(豆知識・下記参照)

- ・チョコレート：特に意味はない
- ・クッキー：友達でいよう→クッキーのようにドライで軽い関係でいたい
- ・キャンディ：あなたが好き→キャンディのように壊れにくく、長〜く一緒に居たい
- ・マカロン：あなたは特別な人→高級なマカロンは特別感があるため
- ・マシュマロ：あなたが嫌い→マシュマロのように食べるとすぐに溶けてなくなる程度
- ・キャラメル：一緒にいると安心→子どものころに食べた懐かしいお菓子=安心感

皆さんはどうでしたでしょうか？



(山口 記)